

こどものなかに見えるもの/井上直子(善隣幼稚園園長)より

子育てワンポイント・励ましのことは3

子どもの涙はことばだと思えます
とても複雑な意味がこめられているので
簡単には読み取れませんし、
「泣いちゃだめ」と我慢させることが
良いとも思えません。



大好きなお母さんと「さよなら」して、幼稚園生活をスタートする子どもたちの気持ちを考えます。登園をしる我が子をなだめながら、なんとか幼稚園まで連れてきたお母さんに、「大丈夫ですよ」と言って、帰っていただきました。でも他の子の登園が終わって門を閉めても、その子の心は落ち着かず、「ママーいやだあーママーいまきてー」とずっと叫んでいます。

その子のそばに行って、「ママに遊んでいるところを見てほしいの?」と尋ねると小さくうなずきました。私は泣きたい気持ちを噛みしめて、少しずつその男の子から離れてみました。するとその子は、園庭の真ん中に立ちつくしながら、遊んでいる仲間たちをゆっくりと眺め始めました。ママの姿は見えなくても、心の底に「ママのぬくもり」を覚えているこどもは、自分自身の目で新しい世界を眺めはじめ、心の目を開いてゆくのです。こうして、この子の、不安と好奇心の入り混じった、スリルと興奮の幼稚園生活は始まりました。

子どもの涙はことばだと思えます。とても複雑な意味がこめられているので、簡単には読み取れませんし、「泣いちゃだめ」と我慢させることが良いとも思えません。言葉にならない心の痛みや戸惑いに、尊敬のまなざしをもって寄り添い、時には黙って見つめ、時には尋ねます。そして心を開いたそのときに、新しい一歩を踏み出すことができる、子どもにはすごい力が備わっているのです。

(書物からの引用に、牧師がほんの少し加筆しています)